

協働契約 事業実施結果報告書

1 事業概要

受託者及び代表者氏名	公益財団法人 尼崎市文化振興財団 副理事長 村山保夫
事業名	令和6年度 A-LAB 運営業務委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- 協議内容は「3総合評価」に記載する
- 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容																														
1	評価指標	魅力的な展覧会を開催できたか																														
	測定方法	アンケートで展覧会・作品について「満足」又は「まあ満足」と答えた入場者の割合																														
	結果	87.0% 【参考】R5年度 90.1% 内訳：下表参照																														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>満足 [人数(%)]</th> <th>まあ満足 [人数(%)]</th> <th>(参考) 回答者数</th> <th>(参考) 入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Vol.43 「A-LAB Artist Gate' 24」</td> <td>79 (73.8%)</td> <td>20 (18.7%)</td> <td>107</td> <td>366</td> </tr> <tr> <td>Vol.44 「常行三昧」</td> <td>49 (48.0%)</td> <td>37 (36.3%)</td> <td>102</td> <td>550</td> </tr> <tr> <td>Vol.45 「家具と抽出し」</td> <td>48 (49.0%)</td> <td>28 (28.6%)</td> <td>98</td> <td>456</td> </tr> <tr> <td>Vol.46 「JIN,JIYAN,AZAD ↑ 女性、命、自由」</td> <td>81 (70.4%)</td> <td>25 (21.7%)</td> <td>115</td> <td>543</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>257 (60.9%)</td> <td>110 (26.1%)</td> <td>422</td> <td>1,915</td> </tr> </tbody> </table>		満足 [人数(%)]	まあ満足 [人数(%)]	(参考) 回答者数	(参考) 入場者数	Vol.43 「A-LAB Artist Gate' 24」	79 (73.8%)	20 (18.7%)	107	366	Vol.44 「常行三昧」	49 (48.0%)	37 (36.3%)	102	550	Vol.45 「家具と抽出し」	48 (49.0%)	28 (28.6%)	98	456	Vol.46 「JIN,JIYAN,AZAD ↑ 女性、命、自由」	81 (70.4%)	25 (21.7%)	115	543	計	257 (60.9%)	110 (26.1%)	422	1,915
	満足 [人数(%)]	まあ満足 [人数(%)]	(参考) 回答者数	(参考) 入場者数																												
Vol.43 「A-LAB Artist Gate' 24」	79 (73.8%)	20 (18.7%)	107	366																												
Vol.44 「常行三昧」	49 (48.0%)	37 (36.3%)	102	550																												
Vol.45 「家具と抽出し」	48 (49.0%)	28 (28.6%)	98	456																												
Vol.46 「JIN,JIYAN,AZAD ↑ 女性、命、自由」	81 (70.4%)	25 (21.7%)	115	543																												
計	257 (60.9%)	110 (26.1%)	422	1,915																												

3 総合評価

協働側面の評価
<p>概ね2か月に1回定例会議を行う中で、展覧会計画や実施後の振り返りを共に確認しながら進めることができた。</p> <p>展覧会の企画、出展作家との調整・設営補助などは、文化振興財団のアートディレクターや学芸員などがその専門性を活かして実施することができた。また、ワークショップは前年度まで市が企画していたが、当該年度から文化振興財団が企画する分担に変更し、これまでにない内容のワークショップをすることができた。ただし、当日の運営が円滑に進行しなかったところもあり、事前に双方で十分な協議をすることも必要だった。</p> <p>また、展覧会の広報や作品運搬についての変更提案を双方から提示し、協議することができた。</p>
事業効果の評価
<p>抽象表現の展覧会の満足度は高くなりにくい傾向があるが、年度合計では昨年度とほぼ同様の満足度であった。</p> <p>展覧会「常行三昧」は、白髪一雄生誕100年記念事業関連企画展として、「絵」とは何かを問いながら実験的な絵画を制作し続ける展覧会で、総合文化センターで開催している特別展と合わせて来場することにもつながった。第2回白髪一雄現代美術賞受賞者の個展「JIN,JIYAN,AZAD ↑ 女性、命、自由」は、社会問題をテーマとしており、作家と丁寧な事前確認をした上で実施することができた。</p>

総評

○事業目的と各展覧会の狙いが合致したものであるかを確認し合う場があることで、委託者・受託者がより協働して取り組み、事業効果を高めることにつながると実感できた。

○双方の状況を共有することで、予定外の場合にもスムーズに対応することができた。

○仕様書に定めのあることについて、現場の実態を踏まえて協議することができた。